

## 安藤忠雄（あんどう・ただお）

1941年大阪生まれ。建築家／東京大学名誉教授。

世界各国を旅し独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。代表作に「住吉の長屋」、「光の教会」、「ピューリッツァー美術館」、「地中美術館」、「こども本の森 中之島」、「和美術館」、「ブルス・ドゥ・コメルス・ピノー・コレクション」など。

1979年日本建築学会賞、1993年日本芸術院賞、1995年プリツカー賞、2002年米国建築家協会（AIA）ゴールドメダル、2003年文化功労者、2005年国際建築家連合（UIA）ゴールドメダル、2010年ジョン・F・ケネディセンター芸術金賞、後藤新平賞、文化勲章、2013年フランス芸術文化勲章（コマンドゥール）、2015年イタリア共和国功労勲章グランデ・ウフィチャーレ章、2016年イサム・ノグチ賞、2021年レジオン・ドヌール（コマンドゥール）叙勲など受賞多数。イエール大学、コロンビア大学、ハーバード大学の客員教授、東京大学教授を歴任し、現在東京大学名誉教授。

1991年ニューヨーク近代美術館、1993年ポンピドゥーセンター（パリ）、2017年国立新美術館、2018年ポンピドゥーセンター、2021年復星（Fosun）芸術センター（上海）、和美術館（佛山）にて個展開催。

著書に『建築を語る』（1999）、『連戦連敗』（2001）、『安藤忠雄 仕事をつくるー私の履歴書』（2012）、『住宅』（2017）など。

# グザヴィエ・ヴェイヤン

## 関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://www.veilhan.com/>

グザヴィエ・ヴェイヤンは、1980年代後半より、多様な媒体（立体作品、ペインティング、インスタレーション、パフォーマンス、映像、写真）を用いて古典主義と高度なテクノロジーの両者に触発された作品群を制作し、高く評価されてきました。ヴェイヤンの展覧会は私たちの知覚に一石を投じるとともに、しばしば発展的で歩行可能な空間を創出し、鑑賞者を作品内の”役者”へと昇華させます。例えば、「Veilhan Versailles」（2009年）、《Architectones》シリーズ（2012~2014年）、第57回ヴェネチア・ビエンナーレにおけるフランス館への提案《Studio Venezia》（2017年）がこの好例です。

ヴェイヤンの作品は公共の場に展示されることが多く、立体作品はパリ、ストックホルム、ニューヨーク、上海、ソウルなど、フランス国内外の数多く都市空間の一部となっています。

また、ヴェイヤンの作品は、ポンピドゥーセンター（パリ）、ジュネーブ近現代美術館（ジュネーブ）、フィリップス・コレクション（ワシントンD.C.）、森美術館（東京）、MAAT（リスボン）など、世界各国の様々な施設にて展示されてきました。

## 略歴

1963 フランス、リヨンに生まれる

現在 パリ在住

## 主な個展

2021 「Chemin Vert」ペロタン（東京）

2020 常設インスタレーション《La Statue de Harajuku》ウィズ原宿（東京）

2017 《Studio Venezia》第57回ヴェネチア・ビエンナーレフランス館（ヴェネチア, イタリア）

2011 「Free Fall」エスパス ルイ・ヴィトン（東京）

2009 「ヴェイヤンヴェルサイユ」ヴェルサイユ宮殿、（ヴェルサイユ、フランス）

2002 映像作品《Le Film du Japon》現代美術センターCCA北九州（福岡）

1998 インスタレーション《La Forêt》現代美術センターCCA北九州（福岡）

## 主なグループ展

2015 「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」森美術館（東京）

2011 「フレンチ・ウィンドウ展：デュシャン賞にみるフランス現代美術の最前線」森美術館（東京）